

## 第2次安平町総合計画の策定に伴う町内団体との意見交換会

開催日時	参加団体等
① 5月10日(火) 町民センター 18:30～	【地域コミュニティ団体】 守田自治会、東早来自治会、北進自治会、ときわ自治会、新栄第1自治会 (5団体：8名)
② 5月11日(水) 追分公民館 18:30～	【地域コミュニティ団体】 西追分農事組合、豊栄自治会、明春辺農事組合 (3団体：4名)
③ 5月12日(木) 追分公民館 18:30～	【地域コミュニティ団体】 追分第一町内会、追分第二町内会、追分第三町内会、追分第四町内会、青葉町内会、若草町内会 (6団体：11名)
④ 5月13日(金) 遠浅公民館 18:30～	【地域コミュニティ団体】 遠浅自治会 (1団体：2名)
⑤ 5月16日(月) 安平公民館 18:30～	【地域コミュニティ団体】 瑞穂自治会、安平第1自治会、安平第3自治会、緑丘自治会、安平町国際文化交流センター(団体の都合により変更して出席) (5団体：7名)
⑥ 5月17日(火) 町民センター 18:30～	【地域コミュニティ団体】 NPO法人ココ・カラ、安平町マチおこし研究所、社会福祉協議会、安平町民生委員児童委員協議会、安平町老人クラブ連合会 (5団体：6名(社協と老連は事務局1名))
⑦ 5月19日(木) 町民センター 18:30～	【子育て・教育団体】 子育てサポーターの会 ありす、追分幼稚園PTA、追分小学校PTA、安平小学校PTA、早来小学校PTA、追分中学校PTA、追分高等学校PTA (7団体：11名)
⑧ 5月20日(金) 追分公民館 18:30～	【文化・スポーツ団体】 安平町文化協会、安平町婦人団体連絡協議会 (2団体：3名)
⑨ 5月24日(火) 町民センター 18:30～	【観光団体・青年団体】 一般社団法人あびら観光協会、若者塾 (2団体：4名)
⑩ 6月6日(月) 商工会館 18:00～	【産業団体】 安平町商工会、安平町商工会女性部、安平町商工会青年部 (3団体：7名)

①早来地区 コミュニティ団体

団体名	特記事項
守田自治会 東早来自治会 北進自治会 ときわ自治会 新栄第1自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属戸数が少なく10年後の先が見えない。</li> <li>・戸数が少ない上に高齢者に加え生活困窮世帯があり、自治会活動が停滞している。</li> <li>・行事参加率を上げるため、地域の神社祭を日曜日に変更する工夫を行っている。</li> <li>・古い分譲宅地には空き家が増加。倒壊の恐れから早急な対応を。</li> <li>・行政の目が行き届かない部分を自治会が補完する重要な機能を理解しつつ、高齢化で役員のなり手がなく、若者の協力が得られない現状から、今後の自治会の必要性に疑問が出てきている。</li> <li>・今のコミュニティ構成を維持できるか。次の10年が不安</li> </ul>

②追分地区（農村） コミュニティ団体

団体名	特記事項
西追分農事組合 豊栄自治会 明春辺農事組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6名しかいないコミュニティでは何もできない。市街地町内会との合併が必要。（農地も無く新規就農も見込めない。）</li> <li>・過去に鹿柵整備をコミュニティで行ったが、今なら高齢化によりできない。</li> <li>・大規模農業だけではなく、今後は有機農業にも目を向けるべき。</li> <li>・農地を集中するのも大事だが、都会の新規就農希望者は小規模農業から入る。選択肢を増やすべき。</li> <li>・農村地区の独居高齢者が増加（広報紙配布時の見守りで対応しきれなくなる。）</li> <li>・少子高齢化という大変な時代。ただ、若い人とどのように上手くやっていくか。どう協力するかが問われる時代となった。</li> <li>・道の駅など高齢農業者の活躍の場があればまだ社会貢献できる。</li> </ul>

③追分地区（市街地） コミュニティ団体

団体名	特記事項
追分第一町内会 追分第二町内会 追分第三町内会 追分第四町内会 青葉町内会 若草町内会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員のなり手がいない。</li> <li>・高齢者が行事へ参加する場合、足の確保が問題。</li> <li>・戸数減少による慢性的な資金不足。町内会費の増額は困難であり、活動ができない。（意見多数）</li> <li>・町内会組織の早急な見直しが必要（意見多数）。町が率先して対応。</li> <li>・子どもの数が減り、子ども会の合併も問題となっている。</li> <li>・早来地区では役場職員が役員3役に入っていると聞くが、追分地区ではあまり多くない。役場職員で担ってもらいたい。</li> <li>・若草団地は急激な高齢化により、空き家も増加。（289世帯で子ども会には14人しかいない）</li> <li>・小地域ネットワーク（サロン）が好評である。</li> <li>・団体の活動が停滞してきているのに、役場からの書面・動員が増加し続けている（2倍との表現）</li> </ul>

④遠浅地区 コミュニティ団体

団体名	特記事項
遠浅自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員のなり手がいない。</li> <li>・誠意ある住民が減少している。</li> <li>・住民から公園の環境美化に苦情が入り、これを高齢者が刈払機で作業するという理不尽な現状。</li> <li>・作業に係るボランティア保険について行政で負担できないか。</li> <li>・ビューティサポートなどボランティア活動では、足の確保も難しく、早来地区に出向くことが難しくなっている。</li> </ul>

⑤安平・瑞穂地区 コミュニティ団体

団体名	特記事項
瑞穂自治会 安平第1自治会 安平第3自治会 緑丘自治会 安平町国際文化交流センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模な組について再編せざるを得ない（現在、組同士で協議）</li> <li>・地域から子どもの声が消えた。</li> <li>・自治会が機能するにはある程度の人数(戸数)が無ければ成り立たない。</li> <li>・後継者のいない農業地域では、独居女性が増加。広報紙を届ける際に声かけするようにしているが限界。</li> <li>・町の予算が減少し、ソフト重視のまちづくりが進められつつあるが、ハードも重要。</li> <li>・補助金を得て、防災備蓄を行っている。自主防災組織で独自に防災訓練を9月19日に行う。</li> <li>・町の会館でありながら、AEDの設置を自治会で行う。補助金の活用など、他の自治会では行っているようだが、情報が少ない。自主防災組織間の情報交換があると良い。</li> <li>・農家地域でありながら、自治会から脱退する住民がいる。</li> <li>・50周年記念として安平地区では運動会を開催し、小学校も行事として参加いただく予定。</li> </ul> <p>&lt;文化交流センター&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の高齢化と実働会員の不足はあるが、マイナスとは捉えず、自分たちにできることを探している。（今後10年は見据えず今の活動を大事に）</li> <li>・会員が減少しても、それに応じた国際文化理解事業を行う。</li> <li>・昨年、まちづくり推進課から声がかかり、タイからの観光客の対応を手伝った。また、安平小学校の授業で国際理解教育を行った。このような情報を役場からいただきたい。</li> <li>・新たに地域見守り隊を結成する。</li> </ul>

⑥地域コミュニティ団体

団 体 名	特 記 事 項
NPO法人ココ・カラ 安平町マチおこし研究所 社会福祉協議会 安平町民生委員児童委員協議会 安平町老人クラブ連合会	<p>&lt;民協&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員協議会では、人材確保が難しい。なり手がいない。(最低でも2期6年が必要)</li> <li>・アパート入居者の把握ができない。</li> <li>・町内には、生活保護は受給していないものの、生活に苦しんでいる方が多数いる。今後も増加するかもしれない。新しいフォロー体制が必要。</li> </ul> <p>&lt;マチ研&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所員の高齢化と事業のマンネリ化</li> </ul> <p>&lt;社協&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協会費に理解が得られなくなっている(自治会等を通じた徴収)</li> <li>・給食ボランティアは需要があり、増やしたいがボランティアゆえに供給が間に合わない。(ココ・カラの事業とタイアップできないか)</li> <li>・介護支援1・2の人で、身寄りの無い方の在宅介護をどのようにサポートするのか、町として大変な時代となる。</li> <li>・老老介護の時代</li> </ul> <p>&lt;ココ・カラ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事が増加し忙しいのに人がいない(会員は56人だが町内実働者が少ない)。</li> <li>・団体事業が知られていない。</li> <li>・地域内の団体とのつながりとPRに努めたい。</li> </ul> <p>&lt;老人クラブ連合会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は増加していながら、クラブに加盟する者は、合併時600人から現在500人に減少。</li> <li>・60歳はもはや老人でない時代。(社会構造の変化)</li> </ul>

⑦子育て・教育団体

団 体 名	特 記 事 項
<p>子育てサポーターの会 ありす 追分幼稚園PTA 追分小学校PTA 安平小学校PTA 早来小学校PTA 追分中学校PTA 追分高等学校PTA</p>	<p>&lt;PTAは共通的な話題のみとする&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの数が少なく、学年役員等を減らして対応している。</li> <li>・追分中学校は75人の生徒数に対して部活が7つ。指導者不足 *安平小の保護者からは子どもの数が少ないからハンデがあるとは思っていないとの発言。</li> <li>・追分高等学校として、地域貢献に力をいれている。これにより入学者が増えている。(早来小学校の運動会に手伝い⇒早小保護者から取組みへ感謝する声があった)</li> </ul> <p>&lt;ありす&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員が固定化し、新しい人が入ってこないため、活動維持が難しい。</li> <li>・何度も解散の危機を迎えているが、何とか会員の努力で現状維持。</li> <li>・個人ボランティアからのスタートであり、事業を拡大し、ビジネス化するような考えは持っていない。</li> <li>・教委にはサポーター新規獲得に向けた養成講座など尽力いただいている。</li> <li>・病児あずかりを行いたいが、体制的に難しい。</li> <li>・活動の幅については、ボランティアからはじめた活動であり、利益を上げていくという考えにはない。</li> </ul>

⑧文化・スポーツ団体

団 体 名	特 記 事 項
安平町文化協会 安平町婦人団体連絡協 議会	<p>&lt;文化協会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の高齢化と役員のなり手が不足している。</li> <li>・若者の加入がない状況にある。</li> </ul> <p>現在は娯楽を含めて豊富な時代となり、若者にとって文化活動への関心がなくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早来支部と追分支部で交付金の取扱いや行事内容が異なること。</li> <li>・現在の文化協会組織のブリッジ方式の早期解消に向け、所管部署である教育委員会の団体指導力を発揮していただきたい。</li> <li>・町職員も各文化団体へ積極的に加入して欲しい。</li> </ul> <p>各団体に町職員が加入することで、行政と団体との距離が近くなると思う。</p> <p>&lt;婦連協&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の高齢化、会員の減少、役員の担い手が不足している。</li> <li>・会員数は150名を超えるが、実際に活動に出てくる人数は少ない。</li> <li>・各自治会の保健推進会と連携した取り組みも考えたいが、やはり活動に出てくる人数が少ない。</li> <li>・追分更生保護女性会の事業に共催参加させてもらった。こういった小さな繋がりや連携から、徐々に交流が進めば良いと考えている。</li> <li>・主催する『女性の集い』には、幅広い女性の方々に参加をいただきたい。</li> </ul>

⑨産業・青年団体

団 体 名	特 記 事 項
<p>あびら観光協会 若者塾</p>	<p>&lt;あびら観光協会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人化したことにより、いかにして収益をあげるかが課題。 *新規事業の検討や効率的な物販・各種サービスの展開により解決を図る。</li> <li>・観光地である富良野や小樽も自治体補助により運営している現状であるが、千歳市観光協会のように自力で収益を上げている団体もある。これを目指していきたい。</li> <li>・会員を増やしていくことが重要である。(現在85名・法人)</li> <li>・会費を集める際は、法人化の挨拶も兼ねて活動への理解を得ていく考えである。</li> <li>・観光資源の掘り起こしが重要。旅行代理店とのタイアップ事業や首都圏への売込みを考えている。</li> <li>・事業計画に無料の旅行相談業務を入れた。(海外旅行相談やハネムーン相談など)</li> <li>・追分駅に置いた菜の花のパンフレットが直ぐになくなる状況がある。</li> <li>・町の観光情報の発信を進める。(SNSなどの情報発信ツールを利用)</li> <li>・グリーンツーリズムについて千歳市や長沼町では、受け皿があふれているという現状。これらを安平町で受け入れできないか検討。 *町内の一部の方で農家民泊などに興味あり。裾野を広げたい。</li> </ul> <p>&lt;若者塾&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人数の確保に苦慮している。活動は継続していきたい。</li> <li>・この団体活動は「せっかく同じまちに住む若者同士、交流し合えないか」という発想で活動している。(運動会など)</li> <li>・若者に「まちの活性化」を意識した活動を求めることは難しい。 *最初からまちの活性化を目標とはしておらず、イベントなどの活動後結果的にまち全体が盛り上がっていればというスタンスで活動を行っている。</li> <li>・活動のPR方法を検討する必要がある。</li> </ul>

⑩産業・青年団体

団 体 名	特 記 事 項
安平町商工会 安平町商工会青年部 安平町商工会女性部	<p>&lt;安平町商工会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業主の高齢化及び後継者が不足している。</li> <li>・新規創業希望者への相談・指導・補助は、町の助成が必要不可欠である。</li> <li>・経営発達支援計画は伴走型と呼ばれるものでソフト重視である。</li> <li>・国に計画申請を上げているが、一回で認定されない場合もある。(他自治体は数回申請し認定w受ける例が多い。)</li> <li>・今回町で創業支援計画を策定すると聞き、創業支援制度のハード(初期投資分)が加われば創業者の選択肢も増えるため期待している。</li> <li>・商工会をはじめとする町内経済の活性化には、町と商工会が一体となった事業展開が求められる。(農業・商工・行政による経済循環サイクル構築)</li> <li>・「いぶき」は建設から13年が経過。大規模修繕が増えることが予想される。商工会も合併し、商工会が単独で運営していくことは今後難しくなる。施設の活用について町と協議していきたい。</li> <li>・「いぶき」を活用したチャレンジ販売やチャレンジショップも挑戦したいが、対応する人(企画して対応し続けられる人)がいない。</li> </ul> <p>&lt;安平町商工会女性部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化により新規部員確保が困難。</li> <li>・女性部活動の認知度が低い。</li> <li>・先日、研修時の講演で「女性が入りたいと思うような活動を目指さない」という話を聞いた。それを意識していきたい。</li> <li>・これまで町の活性化(うまかまつりへの協力、早来小学校1年生に対する「鈴」の贈呈など)を継続的に行っているが目立っていないのか、行政や住民、学校などから感謝されたことがない。「褒め言葉」をいただけることが会員のモチベーションを上げる。</li> </ul> <p>&lt;安平町商工会青年部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者不足や新規事業者が少ないため卒業年齢を45歳に上げたが部員の減少は止まらない。</li> <li>・賛助会員加入規定を拡大し、町内青年団体の一つとして町内若年層を巻き込んだ活動により商店街並びにまちの活性化を図る。</li> <li>・新たな特産品・みやげ品の開発に着手している。</li> </ul>



## 団体ヒアリング意見内容

区分	団体名	出欠 (○・×)	①貴団体の活動を進めていくうえで、抱えている「課題・問題」は何ですか？	②貴団体の今後進めていく基本的な方向性や取り組み、活動についてお聞きます。	③課題解決のために、今後取り組む新たな活動や事業として考えられることは何ですか？	④貴団体の活動を推進していくうえで、町に希望・期待することは何ですか？	⑤町が実施している施策の中で、貴団体が連携できる取組みとして、どのようなことが想定できますか？	⑥町のまちづくり全般についてお聞きます。町として新たに取組みべき施策・事業として、何が必要であると考えますか？	(の安平町は合併して今年で10周年を迎えます。これを記念して、「ひとつの町」であることを形として表現する取組みを求める町民の声もありますが、年齢などによってその考え方やアイデアは様々です。そこでこの状況調査や団体との意見交換会を活用して、より多くの方からご意見をいただこうと考えています。 ■「ひとつの町」であることを形・象徴として表現する取組みの必要性についてどのように思われますか。 ■もし、その形・象徴制作に取り組む場合どのようなアイデアを想定されますか？（町民アンケート結果等で意見されたゆるキャラ、あびらソングなど）	
地域団体	守田自治会	○	■若年層が極端に少なく、自治体活動が限定されている	■自治会役員をくじで抽選している 今後もこのように選定していく	■現状維持		■町内イベントへの積極的参加			
"	東早来自治会	○	■高齢者や生活困窮者もあり予算規模が少ない ■構成員の活動人員も限られ、数人で役員を回している	■若い世代が役員に加わっているため、今後は、若い世代を含めた親睦の場を開いていく	■高齢者の1人世帯をどのように重要であるため、目配りを行う	■少数自治会への自治会交付金の増額 ■高齢化及び人口減少に伴う自治会の合併	■高齢者や身体障がい者に対し、地域サポート制度を導入すること			
"	北進自治会	○	■自治会行事等への参加者が年々減少 ■役員のみ手（引き受け）がない ■北進団地とカナディアン団地との世代間差が住民構成を崩し、統一的な行動が難しくしている ■倒壊しそうな空き家もあるが、町外者所有であったり個人財産であるため、対策に苦慮する	■役員の内現役世代への世代交代により、組織の活性化と地域一体感の醸成を図る。	■自治会行事内容の根本的な見直し（夏祭りなど） ■独自広報紙（定期的な自治会便り）発行の検討 ■全世帯（特に現役世代）参加の自主防災訓練の実施（若年層と高齢者層で訓練の区別）	■廃墟同然の家屋があるため、空き家対策を希望 ■高齢者の割合、人数に応じた助成割合の導入	■合同自主防災訓練			
"	あかね自治会	×								
"	しらかば自治会	×								
"	ときわ自治会	○	■少子高齢化・人口減少により自治会役員の交代を数人でやっている現状 ■自治会にいるという意識の薄れ	■役員を担ってもらうための啓蒙活動を行い意識改革を図る	■自治会行事全体が縮小傾向であるため、地域のコミュニティを形成していく			■安平町は、立地条件が良いといわれるが、人口減少が進んでいるということは、町の魅力がないということである。よって、人口減少及び少子高齢化への対策を願う		
5月10日 地域コミュニティ 団体ヒアリング	あけぼの自治会	×	■あけぼの自治会の事業は、1）熟年の集い（敬老会）、2）地域レクリエーション、3）子ども会レクリエーション、4）各団体が主催する行事参加が主な事業 ■課題は、取組みに併せて事業に対する主旨が地域住民に理解されていないこと ■問題は、各種事業への参加者が高齢のため、1）と2）に限られている実態。（子ども会事業も親子参加が目標であり、他のクラブ活動や大会等への参加が多くなり自治会事業への参加が減少） ■4）についても各団体・クラブの諸行事と重複し、自治会事業への参加者が限定されているのが実態 ■地域住民への徹底したPR活動と口コミによる誘いが重要。また、高齢者への参加を促すには送迎等を積極的に行うことが求められています	■親子の事業参加を基本的に検討する必要性を感じており、学校行事や地域団体等の行事と重複しないような日程を考えた計画が求められてくる ■他の事業への参加は親の送迎が必要不可欠であり、当然親としては子どもに配慮すべきと併せて他の親に迷惑をかけたくない思いも強く感じている行動となっていると考えます	■事業推進に当たって担当する各役員の積極的なPRと呼びかけ及び奉仕の精神が最も重要視される問題であり、この精神なくして新たな事業計画を立案しても参加者が増えるとは思わない ■「公務員の役員以外の公務員の参加協議が不可欠と考える」 ■現状でもあけぼの自治会として新たな事業は若い地域住民の協力なくして立案実行は考えがたい ■事業の開催場所にも苦慮している。屋内での運動的な事業は公的機関の施設を活用する必要が求められてくる。（あけぼの地区に所在する「しのめ会館」「研修センター」の活用を検討する必要がある。）	■ハード面の活動には助成金等の申請により対応可能などもあるが、小事業は独自の予算が基本であり現在のところ特に期待することはない。ただし、一点、公営住宅前の駐車場除雪が入居者の課題となっていると聞いているが、自治会としても何とか解決したいと考えているが、後々の維持管理体制のことが難しいと話し合われているのが実態 ■公営住宅入居者によって棟ごとに自治会組織を立ち上げ、機械の維持管理と運用を検討することも重要であると考え ■棟ごとに関係業者に一括除雪依頼をするか、または自治会が必要経費の一部を助成するか検討の余地がある	■追分地区が積極的に取り組んでいる地域防災組織への取組が当自治会は遅れているのが現状であり、過去に一度だけ話し合われたことがあり、結論には至っていない（公営住宅の入居者は高齢者も非常に多く早期の組織作りが望まれているが、現在の役員間では設立の賛同者が多く見受けられないのが実態） ■組織作りは現在の役員が主な役を担うこととなり、任期制の役員での組織作りは非常に難しい分野と考えられる ■したがって、長期の体制作りが理想であることから、専門的な分野としての役員を専任することが最も重要な課題となっている。これらを解決しなければ組織づくりは困難と思われる（高齢者の理解・協力が重要であり、必要性を理解してもらうことが優先）	■あけぼの自治会に所在するラビアに併設した公園がH27.12に完成したが、規模（が小さく）、公園としての遊具が少ないように思う。また、ラビア活用と併せた公園づくりだろうが、気になっているところは25-27段の階段があること。高齢者の方々の活用では非常に難しい構造になるのではと思う（活用するのは子どもや若者だけではなくと考えます。） ■緩やかな手すり付きのスロープを検討して欲しかった ■併せて遊具が少なすぎる（イベントで使用するためか？） ■冬の遊び場としても有効な活用が可能。隣接住宅に向かってそりすべりなども可能で、安全対策として住宅側に山を作ること安全対策が講じられる。 ■各自治会で取り組んでいる敬老事業は町の助成金を活用しての取組みであるが、過去は行政が開催していた。町行事として復活を望む。 ■合併により町が行うことは非常に厳しいであろうが各地区の連合自治会組織があり、これを活用した開催は検討できないか ■開催に当たっては、連合自治会の中から役員を派遣し行政と一体となり実行委員会組織で開催することを希望する ■現在町の助成金を活用して実施していることは大変ありがたい制度であり感謝している。	■毎年11月に開催されている町の功労者・功績者に対する表彰伝達式の運営について、例年限られた方々の参加しか見受けられないが、式典をもう少し広く地域住民へ周知するべきではないか（該当者の企業や勤務先、連合自治会、各学校等の関係者の参加を促すべきと考えます）（行政側からも各課の課長の出席や受賞者の家族の出席を促すことも有意義ではないか） ■今年度から実行委員会組織で開催された「28年安平町新年交流会」は盛会裏に終了されたと感じ、出席して大変有意義であった。（実行委員会組織は成功したね） ■会場のテーブル配置と出席者の振り分けもできるだけ関係者同士の配置を心がけてくれた感じ、配慮に感謝（来年も時間が許す限り参加したい） ■残念だったのは早来地区自治会長の出席が少なく、町議の出席も少々少なかったように思う ■うまかまつりでは交通指導員として手伝いをしているが、毎年来場者から駐車場に関して苦情をいただく。遠くに止めた来場者の言いついでであるが、会場近くの駐車場が満車となっていないのに、遠方に回されるケースがある模様。誘導は委託先のプロが受け持っているが、指導員としても腑に落ちない配車指示もある。苦情は指導員や役場職員に集まる。もう少し、受託業者は、各駐車場の状況を把握し、連携を図っていただきたい。毎年思っていることであり、実行委員会ですらに検討いただきたい。	<その他> ・うまかまつりについて、小学校や付近の駐車場からの見物者の近道として民有地をまつりときのみ借用し、遊歩道として使用するさせていただき、スロープを手配できないものか検討願いたい ・うまかまつりで「旧早来音頭」の踊りをステージ前で復活披露させてほしいどうか ・町の花として「菜の花」はどうか（追分地区の小高い畑で通りすがりのドライバーが車を止めて写真に収めている姿を多く見受けられる） ・町有地（遊休地）となっている場所等を活用し、農業者に栽培を委託するのはどうか ・私有地の所有者のご理解をいただくなどして、場所の提供や栽培への協力を願うことは無理なのか
"	さかえ自治会	×								
"	北町自治会	×								
"	新栄第1自治会	○	■高齢者の増加及び若年層の減少に伴う年代構成のばらつきや中間世代の穴など	■自治会活動をしていく上で、現役世代に焦点を合わせ、会社勤めの方に配慮した日程にするなど柔軟に対応する	■親睦の場が減少傾向にあるため、女性から子どもまで参加可能な負担の少ない懇親会等の開催	■町のイベントに積極的に参加するように心がける	■貧困世帯の割合でいえば、高齢者世代より子育て世代のほうが多いのではないかと。子育て世代を重点にした施策で引き寄せる（町外から転入する）ことを期待する	■目に見えない垣根を無くすこと	■B級グルメをつくりヒットさせる	

## 団体ヒアリング意見内容

区分	団体名	出欠 (○・×)	①貴団体の活動を進めていくうえで、抱えている「課題・問題」は何ですか？	②貴団体の今後進めていく基本的な方向性や取り組み、活動についてお聞きします。	③課題解決のために、今後取り組む新たな活動や事業として考えられることは何ですか？	④貴団体の活動を推進していくうえで、町に希望・期待することは何ですか？	⑤町が実施している施策の中で、貴団体が連携できる取り組みとして、どのようなことが想定できますか？	⑥町のまちづくり全般についてお聞きします。町として新たに取り組むべき施策・事業として、何が必要であると考えますか？	(の安平町は合併して今年で10周年を迎えます。これを記念して、「ひとつの町」であることを形として表現する取り組みを求める町民の声もありますが、年齢などによってその考え方やアイデアは様々です。そこでこの状況調査や団体との意見交換会を活用して、より多くの方からご意見をいただこうと考えています。	■もし、その形・象徴制作に取り組む場合どのようなアイデアを想定されますか？（町民アンケート結果等で意見されたゆるキャラ、あびらソングなど）
5月11日 地域コミュニティ団体ヒアリング	地域団体 旭陽農事組合	×								
	" 美園自治会	×								
	" 西追分農事組合	○	■人数が極端に少なく、災害時等の不安がある	■少人数により町内会自体機能していない	■自治会の人数が少なく現状活動もない。よって、自治会単位ではなく町との連携・他自治会との合併をしていただきたい	■農業者が年々減少する中、空き農地をメロンのみならず有機栽培などの新規就農者が求める農業形態で募集できれば良いのでは	■高齢者世帯が大半であるため、サポート制度の導入を願いたい。	■環境に配慮したまちとしてアピール ⇒生ごみを肥料・堆肥化し、農家が買い取り、農産物を作成し食卓へ ⇒太陽光発電含め環境及び子どもの学習機会や食育に繋がる		
	" 豊栄自治会	○	■かつて自治会単位で出来ていた事業（鹿柵の設置など）が、現状高齢化しているため難しい ■若年層への負担が多い	■大人から子どもまで参加できるような自治会活動を行う ■高齢者と若年層の連携を図り、自治会活動をしなければならない ■昨年隣の西追分地区の農事組合長さんから、人数が少なくて大変だという話がありましたが、行政区と農事組合があるので整理して今後のことを考えられないかと思っています	■町に既にあるもの・ひとを活かす ⇒農家を引退した方々の技術力・知恵を活かし、道の駅での農産物を販売するなど	■新規就農者を呼び込みめるような環境づくり・施策を期待する	■現在町内会活動に含まれていますが、防災対策、社協の小地域ネットワークは重要だと考えています。高齢化が進んでいますので.. ■逆に高齢化であるからこそ、道の駅の農産物販売に向けて議論しても良いのではないかと思います ■現状農事組合には小地域ネットワークがないので整備する  【小地域ネットワーク】 小地域を単位として、高齢者世帯などに近隣の人びとが見守り活動や援助活動を展開するもの		■追分地区・早来地区の分けはあって当然であり、特段急いで一つになるというものは不要と思う。時間が解決するのではないか。	
" 明春辺農事組合	○	■高齢化に伴い、年々自治体活動の参加者が減少している				■新規就農者の来やすい場所づくりを期待する	■農家は夏場イベントへの参加は難しいが、なるべく参加したい			

## 団体ヒアリング意見内容

区分	団体名	出欠 (○・×)	①貴団体の活動を進めていくうえで、抱えている「課題・問題」は何ですか？	②貴団体の今後進めていく基本的な方向性や取り組み、活動についてお聞きます。	③課題解決のために、今後取り組む新たな性や取り組み、活動として考えられることは何ですか？	④貴団体の活動を推進していくうえで、町に希望・期待することは何ですか？	⑤町が実施している施策の中で、貴団体が連携できる取組みとして、どのようなことが想定できますか？	⑥町のまちづくり全般についてお聞きます。町として新たに取り組むべき施策・事業として、何が必要であると考えますか？	(の安平町は合併して今年で10周年を迎えます。これを記念して、「ひとつの町」であることを形として表現する取組みを求める町民の声もありますが、年齢などによってその考え方やアイデアは様々です。そこでこの状況調査や団体との意見交換会を活用して、より多くの方からご意見をいただこうと考えています。 ■「ひとつの町」であることを形・象徴として表現する取組みの必要性についてどのように思われますか。 ■もし、その形・象徴制作に取り組み場合どのようなアイデアを想定されますか？(町民アンケート結果等で意見されたゆるキャラ、あびらソングなど)	
地域 団体	追分第一町内会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢化に伴い、各種事業を行っても送迎が必要となり対応が難しい</li> <li>■役員の手であれば事故等の場合に保険の問題点がある。有事の際の対応が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■幅広く役員体制(青・老・壮年)を入れ、地区別役員で会員への連絡を密にし、参加率の向上を目指している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢者が理解、協力参加できる事業</li> <li>■食事・お茶等を配れることを考えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■役員は完全ボランティアであるのが現状</li> <li>■補助金の増額(一人当たりの単価)</li> <li>■町職員の協力が少ない</li> <li>■町内会組織の見直し(活動が停滞している自治会に対して合併等を促進するなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町から町内会への協力・要請書面が10年前に比べて倍以上になっている</li> <li>■町の取組みを押し付けているのではない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町全体の評価と町内会が考える評価に大きな差があり、目先(新しさ)を変えるのではなく、現在の事業・施策を再検討するべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■4市街地の均衡した発展が望ましいが、経費節減の名の下にバランスが崩れようとしている。これでは地域格差が出る</li> <li>■町内会の地域配置看板が必要</li> <li>■(町が示した事例)一過性のものはいらない</li> </ul>	
"	追分第二町内会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢化と人口の減少による役員(実動員)人材の不足。現役世帯であれば、仕事との両立により活動も制約される。</li> <li>■会員減少による徴収会費の減少から慢性的活動資金の不足。一人当たりの会費を増やさなければ、活動自体が減退せざるを得ない現状。年金生活者や、独居高齢者の世帯割合も高く、補助金等の増額がなければ存続が危ぶまれる。このような状況での町内会活動、地域住民の各会員への見守りや有事の際の対応等、課題や問題しかない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■会員・会員家族の福祉の向上、快適な生活環境の向上(会則第2条(目的))</li> <li>■高齢者(ひとり暮らしを含む)の災害及び緊急時の支援事業(日頃からの声掛け)</li> <li>■環境整備(会員相互の連携、互助精神の醸成、町内清掃事業)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■他町内会との合併を視野に入れた、町内会組織の再編と連携。又は、各事業ごとで他町内会との合同活動や連携。どこが主体となり先導していくかの検討は必要である。</li> <li>■そのための協議会の設立及び開催</li> <li>■町民アンケートや意見交換等の検討および実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現実的、かつ、もっと踏み込んだ形での町職員地域サポート制度の充実を望む。町職員の自主参加も良いが、自主参加者がごく少数、または無かった場合での地域へのはり付けや担当制度など、積極的に責任感のある支援を期待する</li> <li>■各町内会同士の地域格差の是正。サポート制度のような人的サポートも必要だが、町内会の活動資金格差が著しい。地域住民は町内会を選べないので、貧乏町内会の会員は会費高の割りにまともなサービスを受けづらい部分もある</li> <li>■ハザードマップや避難所の見直し。町の主導により、防災計画の住民周知と緊急時への備蓄等の周知と充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「オール安平」としての意識の醸成</li> <li>■デマンド交通の見直し</li> <li>■日常生活における買い物弱者への対策と対応</li> <li>■役場における各種手続き等において、地域間格差を感じないようにすること</li> <li>■マイナンバー制度に伴う個人情報情報の漏洩の絶対的管理体制</li> <li>■職員と各事業者との癒着等への厳格化と透明性。職員の自粛のあり方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■必要</li> <li>■安平町を全道全国にアピールするチャンスと捉えるべき。4地区の特性を再発見し、人や物(飲食含む)・観光地となり得る場所の発掘と調査研究</li> <li>■これらを再開発した上での回遊する楽しみを提案していくことが大切であるとする。その形・象徴として表現する取組みは良いが、決して一過性とならないよう、これからの10年を見通したものでなくてはならない</li> <li>■高まった意識の中で生まれたアイデアは生きたものになるはずだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ゆるキャラなどは、全国での成功例が極めて少ない。定着するのに費用も時間も膨大な割には費用対見込み効果が薄い。毎年予算80万円ほど?</li> <li>■思いつきならいくらでもあるが、限られた予算の中で有効なアイデアと呼べるものはそう簡単に出てこない。積極的に町民フォーラムや意見交換交流会などを多数企画して全町民の意識の高まりを誘導する必要がある</li> <li>■高まった意識の中で生まれたアイデアは生きたものになるはずだ</li> </ul>	
5 月 1 2 日 地 域 コ ミ ュ ニ テ ィ 団 体 ヒ ア リ ン グ	追分第三町内会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢化により役員のなり手が少ない(特に男性)</li> <li>■少世帯町内会(現在54世帯)で予算規模が少なく諸行事ができづらい</li> <li>■交付金の世帯数判定において、2世帯だが1世帯とみなす世帯(子の世帯と同居)が多く実情と離れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■予算規模に併せた行事予定の実施</li> <li>■災害時における防犯組織の結成</li> <li>■一人ひとりの不幸を見逃さない、住み良い町内会づくり</li> <li>■夏冬ジャンボ宝くじ購入による夢と希望のある事業の継続</li> <li>■自治会の12名で構成する見守り隊により、高齢者宅を訪問の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まだ、自主防災組織が結成されていないので、早期結成を目指す</li> <li>■新たな活動事業を行う財源づくり(現在町内会事業として夏と冬にジャンボ宝くじを購入していく)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■100世帯未満の少世帯町内会等への交付金の増額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■防災関連の連携(既に自主防災組織がある自治会や町との連携など)</li> <li>■安平町職員による地域サポート制度の実施と充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新たにというより、既に実施が決まっている安平町回遊・交流ステーション形成事業の早期実現とそれに向けたマスメディアを利用したPRを強く行うことが、安平町のPRにも繋がっていくものと思われる(定住誘致にも繋がる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■合併10年目を契機として、遠浅地区、早来地区、安平地区・追分地区の連合自治会・町内会連合会あるいは単位自治会・単位町内会でそれぞれ交流事業を考え、実施してみたいかがか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■既に実施している自治体はあるが、有名人(スポーツ選手・芸能人等)を利用し、観光大使として利用してみたいかがか</li> </ul>
"	追分第四町内会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■会員、役員の高齢化</li> <li>■町内会への活動、事業理解の希薄化</li> <li>■町内会の少子化。子育て世代が少いため、必然的に子どもの数が少なく活気も生まれにくい</li> <li>⇒子ども会の減少により町内会との活動機会が減少</li> <li>■戸数は多いが交付金は減少傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■若い世代の意見を取り入れた満ちた安心できる事業展開</li> <li>■情報発信の積極的な展開</li> <li>■安全安心笑顔が溢れる地域を目指す</li> <li>■子ども会・町内会・高齢者(サロン会)と世代間を超える交流会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町内会便りの継続(回覧板を廃止し、毎月発行の町内会便りに変更することで、自治会活動の啓蒙及び情報公開を実施)</li> <li>■会員相互のコミュニケーションを深める観点から従来の町内会の事業や新規事業について見直し・充実を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■様々な課題、問題等について、情報の共有化及び町と団体が相互に解決に当たる協働姿勢の確立</li> <li>■戸数の減少傾向に伴い、町内会事業の継続・充実のために自治会等交付金(均等割額・世帯割額)の単価を増額してほしい</li> <li>■時代の流れとともに「花いっぱい運動」等で設置されてきた「花壇」について、維持管理の見直しや設置場所の移動が必要などことがある。そのための費用の助成の検討が必要</li> <li>■地域サポート制度の実績を随時情報提供し、導入を検討する自治会の参考として示してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■防犯、防災に関すること</li> <li>■春、秋のゴミクリーン作戦に夏を加えて年3回としてはどうか</li> <li>■花いっぱい運動、敬老会の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■防犯灯の補修や電灯を支えている器具の取替え(古くなって腐食している)が必要な時期が来ている。2020年までに国の方針としてLED化が予定されていると聞いている。これらにかかわる費用負担は町内会としては無理がある。町の助成を期待する</li> <li>■当地区では居住人の高齢者などで草刈、除雪などで協力体制が取れず管理が非常に難しくなっているところがある。(中央公住、高齢者宅、空き家など)。何か良い方法を考えてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■必要と考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町民憲章、町歌・安平音頭、町花・町木、町獣、ラウンドマーク、キャッチフレーズ、ゆるキャラ</li> <li>■町民全体のアイデアを募集してみたいか？</li> <li>■児童、生徒の頭の柔らかい世代のアイデアも必要と考える</li> </ul>
"	青葉町内会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■少子高齢化の中、世帯数は割合多いが役員の成り手がいない。</li> <li>■子ども会の人数が少なく活動の休止に迫られる(現在は、2地区合同で開催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■防災活動の一環として、災害時の心構えを身に付けてもらうために「防災ハンドブック」を、各戸に配布しようとしています</li> <li>■回覧板を廃止し各戸配布することによる情報共有の迅速化を図る</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>■かわいいゆるキャラを制作し、道の駅や各種イベントで子どもたちの集まる場所で見せることで、また会いに行きたいとなり、子どもに親も付いて来て、集客につながる(メロン熊のような怖いのはだめ)</li> </ul>	
"	花園町内会	×								
"	若草町内会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■かつて出来始めた団地の高齢化率が高くなり、自治会便り等の配布が難しい。また、空き家(部屋)の問題がある</li> <li>■役員の成り手がなく、一度役員になると数年継続して続けなければならない状況にある</li> <li>■規模は大きいですが、役員の成り手がいないと運営が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町内会主催の環境整理(ひまわりの植栽、遊歩道の草刈)、体力づくり(パークゴルフ等)の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■震災時における防災体制の強化</li> <li>■個人情報等に苦慮すると思うが、どこに誰が住んでいるかなどを把握し、極力全戸守られるような体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ハザードマップの更新及び配布</li> </ul>				
"	中央町内会	×								



## 団体ヒアリング意見内容

区分	団体名	出欠 (○・×)	①貴団体の活動を進めていくうえで、抱えている「課題・問題」は何ですか？	②貴団体の今後進めていく基本的な方向性や取り組み、活動についてお聞きします。	③課題解決のために、今後取り組む新たな活動や事業として考えられることは何ですか？	④貴団体の活動を推進していくうえで、町に希望・期待することは何ですか？	⑤町が実施している施策の中で、貴団体が連携できる取り組みとして、どのようなことが想定できますか？	⑥町のまちづくり全般についてお聞きします。町として新たに取り組むべき施策・事業として、何が必要であると考えますか？	⑦安平町は合併して今年で10周年を迎えます。これを記念して、「ひとつの町」であることを形として表現する取り組みを求める町民の声もありますが、年齢などによってその考え方やアイデアは様々です。そこでこの状況調査や団体との意見交換会を活用して、より多くの方からご意見をいただこうと考えています。	
5月16日 地域コミュニティ団体ヒアリング	地域団体 瑞穂自治会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自治会活動の拒否をする者の取扱い</li> <li>■役員の成り手がいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■防災備品の購入等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■自治会が活用できる補助金の情報提供</li> <li>■役員の成り手がいないことに対して、相談や解決策の提示など行政の協力体制を望む</li> <li>■行政及び職員が、自治会の現状・実態を把握すべき</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ハード事業に対する予算増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■もし、その形・象徴制作に取り組む場合どのようなアイデアを想定されますか？（町民アンケート結果等で意見されたゆるキャラ、あびらソングなど）</li> </ul>	
	" 安平第1自治会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各種事業の参加者が固定化し、減少傾向</li> <li>■要因としては会員の高齢化</li> <li>■各組の構成員数が減少し、組の機能や役職確保に苦慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安全で安心して過ごせる地域づくりを基本とした活動の充実</li> <li>■自治会、民生委員、福祉協力員と連携して独居者の緊急連絡体制の実施。</li> <li>■自然災害等の対応のための自主防災活動。避難訓練の実施</li> <li>■現状の活動内容の継続及び年々変わりゆく年代構成に対応した事業活動内容の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■会員の高齢化に伴い、現在の活動をベースに、実態に即応した事業内容の変更と新規事業を検討する</li> <li>■自治会構成員の減少に伴い、機能できる組の再編が不可欠</li> <li>■自治会内、各組数のバランス調整。再編</li> <li>■各自主防災組織における情報交換。横の連携をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町には、色々な地域支援事業があるが、各課の支援事業をまとめて一覧表にしてほしい。（町の支援や助言等について自治会の各部門で検討しやすい）</li> <li>■自主組織等（CS機構）に対して、地域づくりの一環として自治会も間接的に応援しているが、行政も運営面で協力支援強化（地域振興策）を望む（観光協会の連携含む）</li> <li>■交流施設の充実で年齢に関係なく人が集まり、地域活動推進の源になる</li> <li>■公営住宅建設に伴い、子どもの数が増えた。⇒公園のトイレ整備・常設を望む（依頼済み）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自然災害に対する自主防災の連携</li> <li>■ひとり暮らしの方や高齢者の見守りなどの連携。見守り隊の結成。健康福祉課との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■観光事業に対する取り組みも必要と思うが、今後高齢者が増加し、かつ、ひとり住まいの方への介護対策など、老後も安心して安平町に住む環境づくりが不可欠と思う</li> <li>■町は定住化促進に取り組んでいるが、近隣市町にない特別学級（特別区）を小規模校に開設することも検討の値があると思う</li> <li>■昼夜人口比率が高い安平町で、町内勤務する町外者を取込む施策</li> <li>■安平町の不動産情報を町ホームページで把握できるような仕組みづくり</li> <li>■各小学校において、小規模校だからこそできるマンツーマンの指導、特別学級等の取り組みをアピール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■必要性は認識しているが、（各地区の）こだわりなど課題が多いので急ぐ必要はない</li> </ul>	
	" 安平第2自治会	×								
	" 安平第3自治会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■戸数が少ないうえ、高齢化率が高いので、自治会活動の規模が小さい。今後の活動全般において心配</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢者世帯の見回り</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■見守り隊の結成により町との連携が想定できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■子どもの声が聞こえる町 ⇒子育て支援の充実（子どもの医療費全額負担等）</li> </ul>		
	" 緑丘自治会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自治会の住民の構成に偏りや家が点在している ⇒地域の意思疎通が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■広報配布時等に高齢者宅など地域の声掛け</li> <li>■毎年役員の改正を行い、ほぼ全員が会長副会長を歴任しているため自治会の方針・活動内容等を把握</li> <li>■最低限の自治会活動の維持</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域の活性化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■安平町の姉妹都市提携（現状提携なし） 仮に提携をすれば、姉妹都市との地域間交流により、安平町の魅力認識・発信に繋がる。</li> </ul>	

## 団体ヒアリング意見内容

区分	団体名	出欠 (○・×)	①貴団体の活動を進めていくうえで、抱えている「課題・問題」は何ですか？	②貴団体の今後進めていく基本的な方向性や取り組み、活動についてお聞きします。	③課題解決のために、今後取り組む新たな活動や事業として考えられることは何ですか？	④貴団体の活動を推進していくうえで、町に希望・期待することは何ですか？	⑤町が実施している施策の中で、貴団体が連携できる取組みとして、どのようなことが想定できますか？	⑥町のまちづくり全般についてお聞きします。町として新たに取り組むべき施策・事業として、何が必要であると考えますか？	(の安平町は合併して今年で10周年を迎えます。これを記念して、「ひとつの町」であることを形として表現する取組みを求める町民の声もありますが、年齢などによってその考え方やアイデアは様々です。そこでこの状況調査や団体との意見交換会を活用して、より多くの方からご意見をいただこうと考えています。	
5月17日 地域づくり・福祉ヒアリング	地域づくり・福祉団体	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人手不足により活動内容をセーブしている状況。⇒町内活動を優先して行っているが、事業規模の増加はできていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地元食材を活かした食品等開発の継続</li> <li>■親子で参加できるワークショップの開催</li> <li>■他地域・他分野の団体との連携により新たな事業を展開予定</li> <li>■味噌講座にて作成した味噌を購入できるように加工場をつくることを検討（補助金等利用）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■現状と変わらぬ支援を望む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町が行う会議をみずほ館にて実施し、併せてご飯を提供する場を設ける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■「ひとつの町」であることを形・象徴として表現する取組みの必要性についてどのように思われますか。</li> </ul>	
	〃	安平町マチおこし研究所	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■名前だけの所員が半分もあり、会費の未納も続く。新所員もこの3年間で6名と新たな流れができつつあるが所員の平均年齢を上回っていることから、将来を心配する</li> <li>■事業のマンネリ化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■小学校のふるさと教育の手伝い</li> <li>■教育委員会の学社融合事業</li> <li>■道教委の子どもの夏冬休み中の朝活事業</li> <li>■安平川に魚道の設置とサクラマスの遡上</li> <li>■炭焼き事業と脱臭ボックスの公共施設設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現在の事業の深度化を進める</li> <li>■炭窯の老朽化が進み改修または新しく作らなければならない。（前回は環境財助成）</li> <li>■サクラマス受精卵の購入が難しく、新たな孵化場（魚の染色体の関係から安平川に合う卵）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■事業補助金の増額</li> <li>* 現行は大半がボランティア事業</li> <li>■町職員の協力体制強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自然環境の保全（安平川護岸の植栽等）と青少年教育（水生生物の調査やサクラマスの稚魚放流等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■目先を変える新しい施策事業よりも現在行っている事業の評価と総括をしないで、新しい事業が良いことは思いません（虻蜂取らずになりませんか？）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域格差が出ないような施策を望む</li> <li>■地域の説明会や対話をきめ細やかに行ってほしい</li> <li>■地域の役員会や班の集会等で意見を聞くために赴くことも必要</li> </ul>
	〃	安平町社会福祉協議会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■少子高齢化という構造的問題による介護職の人材不足により、今後、公的福祉サービスの供給が制限される恐れがあり、在宅で生活する重度の要介護者が増加することが予測され、介護保険法の改正においても、公的サービスを補う住民活動の強化が位置づけられていますが、担い手である自治会町内会の役員、ボランティア等が高齢化し、担い手が不足することが予想されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■本会の活動は、住民主体による福祉活動の推進を基本原則としています。本会は、住民自身が地域の課題を認識できる機会を作るなどにより、主体的な活動のきっかけづくりを行い、それらの活動を側面的に支援することにより、地域福祉を推進することを目的としています。</li> <li>具体的には、自治会町内会の区域を対象とした小地域ネットワーク事業、地域を特定しないボランティア活動の推進などに取り組んでいます。</li> <li>また、生活保護を受給できない生活困窮者や判断能力が不十分な方など、公的な福祉サービスや制度で十分対応できない方への支援も本会の役割として求められており、更にこれらの方々に対する支援の充実を図っていく必要があります。</li> <li>■安否確認の意味を含めた、配食サービスを行っているが、高齢者増加に伴い新たな事業として考えられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■在宅で生活する認知症高齢者や要介護者等の見守りについて、住民参加による見守り活動の推進やITシステムの導入などにより充実を図っていくことが必要と考えています。</li> <li>■身寄りのない認知症高齢者等の支援の必要性も増していくことが考えられ、新たな仕組みについて検討していくことが必要と考えています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新たな課題に取り組んでいくためには、社会福祉士等の専門職の配置が必要で、専門職配置に伴う財政支援をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町が実施する「地域見守りネットワーク事業」と連携し、「鍵預りサービス」などを実施しているが、高齢者等の見守り活動について、今後さらに連携の幅を広げていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■買い物や配食など、高齢者の生活支援に企業や商工会などが活躍できる部分があり、これらの事業展開を活性化する施策があればよいと考えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現段階で、団体としての考えがまとまっていません。</li> </ul>
	〃	安平町民生委員児童委員協議会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■民生委員の任期は3年となっているが、新たな人選（担い手）に苦慮している。また、民生委員は地域住民からの信頼が重要であり、ある程度の任期を担っていたかなければならない</li> <li>■現在の委員も高齢化が進み、地域住民の実態把握が難しくなっているため、次の担い手の方に対して養成機関を設けながら現在の委員と並行しながらの活動が望ましい</li> <li>■新しいアパートの入居者の把握に苦慮している。（表札がなく、転入出が激しい。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■従来どおり地域密着の関係を保ち、一人ひとりに対する更なる細やかな対応</li> <li>⇒女性が対象者の場合には、女性の委員が訪問するなどの配慮</li> <li>■委員が変更となった地域の住民との信頼構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現在行っている委員一人ひとりの活動の継続</li> <li>■次期委員の改選に向けて、新委員に対する養成期間を一定期間設けながら、地域住民の不安解消等に向けての取組み</li> <li>⇒数年間継続して委員を担ってもらうため、前任者及び他委員でのバックアップ体制を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域（自治会・町内会）に関心のない住民が多く、「誰かがやってくれるから自分はやらなくて良い」「なぜ私が・・・」という精神の脱却に向けての教育・意識改革への取組み</li> <li>■現在も複数の重責を掛け持ちで担っている方が多く、次の候補者を選定するのが非常に難しい状況にあるので、将来を見据えた人材育成・養成の場があると候補者を選定しやすい仕組みがあると良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町職員による地域担当制を活用した地域での見守り体制・安平町全体としての見守り体制の確立（情報共有含む）</li> <li>■しかしながら、個人情報からのみならず、現実的には難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■有償ボランティア制度を幅広く導入し、自分たちでできることや自分たちでやらなければならないことを明確にしながら行政に頼らない仕組みづくり</li> <li>■また、先に記載したように、人材育成・養成に関し、人材登録となった者に対して期間限定とした奨励金等の給付制度の創設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■合併10年を迎えても地域住民の方々には未だに一つになりきれていない部分がある。自分が長年住んでいる地域には当然愛着があり、それぞれの特色・経過があるので、そこに住む住民を尊重しつつ、地域格差のない「ひとつの町」としての取組みが重要である</li> <li>■また、逆に地域に関係なくお互いに交流を図りながら「ひとつの町」として少しずつ一体となってきたのも事実である</li> </ul>
〃	安平町老人クラブ連合会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■社会構造の変化により高齢者人口が増えているのと対照的に地域のお年寄りが集まる単位クラブの存続が危ぶまれている</li> <li>■引退してまで組織に縛られたくないという人が増えて、会員が減っている。会に対する意識が希薄している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域を基盤とする高齢者の自主的な組織。原則として同じ地域に住む60歳以上の人で組織している</li> <li>■日常生活を支えあうこと、生きがいづくり、介護予防についての研修会に参加</li> <li>⇒ふまねっとの導入等（歩行バランスの改善を図る「運動学習プログラム」）</li> <li>■安平町老連研修会にて引き続き取り組んでいます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■これからは、在宅高齢者が増加</li> <li>■認知症・介護者等に元気な高齢者が、「顔見知りのお助けマン」「顔見知りのサロン」活動が必要と考えられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢化に伴い、行事に参加する際にバスが必要となってきている。</li> <li>■現状町所有バスにおいても、競争率が高く利用が行き届いていないため、台数の確保を望む</li> <li>■今よりももう少し多人数が乗車できるバスがあることを期待したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町が実施する「地域見守りネットワーク事業」と連携し、近隣の事情を良く知る高齢者が、高齢者の見守り活動を広げていければと思います</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■店舗が閉店になり、「買い物難民（高齢者）」を救う施策があればと考えます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 団体として考えがまとまっていません</li> </ul>	

## 団体ヒアリング意見内容

区分	団体名	出欠 (○・×)	①貴団体の活動を進めていくうえで、抱えている「課題・問題」は何ですか？	②貴団体の今後進めていく基本的な方向性や取り組み、活動についてお聞きします。	③課題解決のために、今後取り組む新たな活動や事業として考えられることは何ですか？	④貴団体の活動を推進していくうえで、町に希望・期待することは何ですか？	⑤町が実施している施策の中で、貴団体が連携できる取組みとして、どのようなことが想定できますか？	⑥町のまちづくり全般についてお聞きします。町として新たに取り組むべき施策・事業として、何が必要であると考えますか？	⑦安平町は合併して今年で10周年を迎えます。これを記念して、「ひとつの町」であることを形として表現する取組みを求める町民の声もありますが、年齢などによってその考え方やアイデアは様々です。そこでこの状況調査や団体との意見交換会を活用して、より多くの方からご意見をいただこうと考えています。			
			■もし、その形・象徴制作に取り組む場合どのようなアイデアを想定されますか？（町民アンケート結果等で意見されたゆるキャラ、あびらソングなど）				■「ひとつの町」であることを形・象徴として表現する取組みの必要性についてどのように思われますか。					
5月19日 ヒアリング	子育て・教育団体	子育てサポーターの会 ありす	○	■有償託児ボランティアとして活動しているが、新規サポーター数が少なく存続に関わる。預けたいという声はあるため出来る限り対応している状況	■現状維持。	■サポーターの確保。子育て講演会開催時などにサポーター募集の呼びかけなどの実施	■教育委員会から活動に対する助言をもらうなど、現状の連携・支援体制に満足している	■病児預かりを検討したが、サポーターの数が少ないこと、及び、子どもにとってのベストであるかを考えた時に白紙となったが、要望があった時は再検討を考えている。	■学童で指導員が勉強を教えているが、学童・指導員だけでなく、地域全体を巻き込んだものにし、学力向上を図ったうえで町の魅力としてPR			
	〃	安平町子ども会育成 連絡協議会	×									
	〃	追分幼稚園PTA	○	■平成29年度には（現幼稚園）閉園しているのですが、昔（以前）と同様に、いろんなことを動めていかなければならないことが基本となっていること ■子どもの数が少なく、それに伴う親及び職員の数も少ないため運営や事業の実施が難しい	■少人数の園なので、保護者の協力は欠かせないと思っている。運営は園なので、園の考え、想いを大事に協力する ⇒少人数での活動であるため、PTA役員と行事を行う役員間の連携が図られている	■新しい活動をするのは難しい。特に考えていない	■各行事（運動会等）におけるボランティアでの関わり。 ⇒しかしながら、町営なので、小中高とのつながり、かかわりがもたあっても良いのでは？ ■町営であっても孤立している感じがする	■交通安全呼びかけ活動	■追分、安平、早来、遠浅が別々の感じがするので、各種交流など	■良いと思う	■アイデアは何でも良いと思うが、各地区全てに浸透できるかだと思う	
	〃	はやきた子ども園PTA	×									
	〃	追分小学校PTA	○	■児童数の少なさ、及びこれに部活動の活動維持に苦慮している （一学年15名程度しか児童がいない）	■児童数減少に伴い、PTA役員の役員数を減らした	■現状維持。今後継続して活動を行うためには、親・教員の協力体制が不可欠である	■少子化対策を望む		■子育て世代に対する公営住宅（収入に応じた家賃・制限）の要件緩和を行い、継続して住める制度にし、子育て世代の支援を行う			
	〃	安平小学校PTA	○	■安平地区に住むところが少ないため、必然的に子どもの数も減少している。 ■全校生徒23名と少数だからこそ問題とは思わず、子ども自身役割の認識に繋がり、教育面で良い影響を果たしている ■PTAの業務量も出来る範囲内であり負担もない	■現状維持。 （毎年作成しているスケートリンク作成の継続など）		■空き家のリフォーム助成などを行い安平地区に住む場所の確保を望む ■学校のトイレのバリアフリー化 ⇒災害時など高齢者も使用することが想定される ■放課後子ども教室の継続					
	〃	早来小学校PTA	○	■校内に家庭科室がなく、現状理科室と兼用であり薬品等使用することもあるので、安全面に欠ける ■職員駐車場のぬかるみ ■災害時の通学バス等の連絡体制（クラスとバスの連絡網が別）	■各行事や廃品回収の手伝い。 ■おはようプロジェクト一年生を対象とした保護者による挨拶・通学活動の実施	■学校ボランティア制度の開始 （学校側からの依頼により、草刈などの様々なボランティア活動に対応するもの） ⇒保護者だけではなく、地域住民も巻き込んだ取り組みとしていく予定	■家庭科室・理科室を兼用ではなく別々にしてほしい ■職員駐車場のぬかるみ改善	■追分高校との連携による運動会の開催				
	〃	遠浅小学校PTA	×									
	〃	追分中学校PTA	○	■生徒数の減少⇒各行事の手伝い確保や部活動の存続にも影響あり ■部活動の指導者人材不足	■各行事への協力体制の維持		■ハード面も必要ではあるが、ソフト面（学力・体力向上）における支援を望む	■町内におけるボランティア活動（祭りの巡回など）があれば、今後検討したい。	■医療費が高校生まで無料などの魅力を前面にPRするべき			
	〃	早来中学校PTA	×	■少子化に伴い生徒数が減り、保護者の人数も見込めず、PTA活動、部活動等が人数確保できにくい状況になってきています	■中学校のPTA活動は、3年間の中で各学年、専門部に委員を決め、1年活動してもらいます ■また、地域の有識者数名の方たちと中学校の運営を協力してもらい、年に数回意見交換を行っています	■現在は、学校運営協議会（コミ・スク）の立ち上げとともに、保護者はもちろんのこと、先生や地域の方々の意見を教育行政に反映させやすくなった。また、早中のコミ・スク立ち上げに伴い、町内全校にこの仕組みが構築されたことから、今後は各校間の情報共有等が行われるよう望む。	■前出のコミ・スクの活動や、生徒会などの活動内容を、あびらチャンネルの利用などにより、情報発信していただけるような環境整備を望みたい。（学校の応援団としてのコミ・スクの本来的目的の達成のため、文書以外の「メディア」の利用が可能であれば効果的であると判断し、希望するもの。）					
〃	追分高等学校PTA	○	■根本的に人口が少なく、地元の生徒が少ないためか、参加（役員等）してもらえ方が限られている	■学校と連携を取りながら、生徒の進路に参考になるような情報を保護者へ提供したり、「生徒達」を中心に考えて活動していきたいと思えます ■幼小中高校との運動会における連携 ■各種ボランティア活動の継続	■町内からの生徒が増えてくれば、少し改善されるかもしれませんが、仕事をしている保護者、共働きが多いこと、個人の考え方もあるので何ともいえません。どの学校も抱えている悩みだと認識しています	■今現在、学校へ納付する諸経費等の補助をいただいております。今後とも宜しくお願ひいたします	■中学生や高校生が興味を持って聞けるような講演会の手伝いなど * 質問の括りが大きすぎてどう答えて良いかわかりません ■教育委員会との連携によるNIE（新聞を教材として利用）の実施、また、町の施設を活用した教育活動の実施	■高齢者や小さな子どもばかりでなく、中学生、高校生くらいの子も達が町内に留まるようなアイデアがあるといいですね ⇒学校の存続を考えると、卒業後安平町での働き口を作るなど	■安平町内地区対抗スポーツ大会の開催により住民の地域間交流活性化			

## 団体ヒアリング意見内容

区分	団体名	出欠 (○・×)	①貴団体の活動を進めていくうえで、抱えている「課題・問題」は何ですか？	②貴団体の今後進めていく基本的な方向性や取り組み、活動についてお聞きします。	③課題解決のために、今後取り組む新たな活動や事業として考えられることは何ですか？	④貴団体の活動を推進していくうえで、町に希望・期待することは何ですか？	⑤町が実施している施策の中で、貴団体が連携できる取り組みとして、どのようなことが想定できますか？	⑥町のまちづくり全般についてお聞きします。町として新たに取り組むべき施策・事業として、何が必要であると考えますか？	<p>(の安平町は合併して今年で10周年を迎えます。これを記念して、「ひとつの町」であることを形として表現する取り組みを求める町民の声もありますが、年齢などによってその考え方やアイデアは様々です。そこでこの状況調査や団体との意見交換会を活用して、より多くの方からご意見をいただこうと考えています。</p> <p>■「ひとつの町」であることを形・象徴として表現する取り組みの必要性についてどのように思われますか。</p> <p>■もし、その形・象徴制作に取り組む場合どのようなアイデアを想定されますか？（町民アンケート結果等で意見されたゆるキャラ、あびらソングなど）</p>	
5月20日 文化・体育ヒアリング	文化・体育 安平町文化協会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■会員高齢化のため、会員数が減少していること、若者の加入がない。役員のみ手がない</li> <li>■現在は、色々なものが豊富で、特に若者にとって文化活動には無関心になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町内の芸術文化を継続し、健全な趣味を通じて人生に潤いと地域住民の親睦を図り、明るい社会をつくることを推進していきたい</li> <li>■早来支部、追分支部の団体行事を出来るだけ同一の内容にしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■いかにして少ない若者たちを加入させるか、関係機関と連携してPRしていきたい</li> <li>■早来支部、追分支部それぞれで、交付金の取り扱いや行事内容が異なる。現在の協会のブリッジ方式を早く解消できるよう、所管部署である教育委員会でも協議して欲しい。文化協会から教育委員会にはその旨を話している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町職員も積極的に加入していただきたい</li> <li>■教育委員会職員も各支部に出席して、指導・協力をお願いしたい</li> <li>■現在の協会のブリッジ方式を解消できるよう、教育委員会が率先して対応してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町民の意志を知ることにより、まちづくりの計画や協力を得られると思われる</li> <li>■各文化団体への町職員の参加、加入を望む。</li> <li>■各団体に、町職員1名が入ってもらうことで、行政と団体の距離が近くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町民の意思を知ることが先決であり、予算前の企画に対する理解が必要</li> <li>■札幌・千歳・苫小牧に近い地の利を活かし、鉄道用地の広大な空き地を買い取り、自動車関連企業などを誘致し、雇用の確保や人口増加を考えてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■合併してからの成果と反省を示すことが第一であると思われる</li> <li>■その結果、初めて「ひとつの町」であることを形・象徴として表現があるのではないだろうか？</li> <li>■今行っている各地区の文化祭とは別に、全体としての文化祭が出来れば良いと考えている。地域間の隔たりが無くなれば良い。</li> </ul>	
	”	安平町国際文化交流センター	5/16に参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>■強い上げるなら、会員の高齢化と実働会員が少ないことでしょうか。しかし、それを問題点、マイナスとは捉えていません。自分たちの立ち位置でできることを模索しながら、一人でも多くの町民の皆さんに国際理解の場を、交流の場を提供してきましたので…</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■①でも申しましたが、私たちの活動は町民の国際理解と交流の機会を設けることと考えています。そのために必要なこと、できることは形・内容にとらわれず取組も考えています。こうしなければ、これしかできないという枠にはまった考えは持っていません</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■問題と捉えていないので、解決のための取組みは必要ありません</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■行政（役場）は、町の中でも一番の若いマンパワーのあるところですが、行事・各団体参加する人数が少ないと思います。町職員としてではなく、一町民として参加活動するよう、職員教育・指導を期待します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■昨年から、外国人観光客の受入事業に、まちづくり推進課と連携して、国際文化交流センターとして「おもてなし」の心を届け、安平町の思い出づくりのための取組みをしています</li> <li>■現在の「ジャンボクリスマスツリー」だけではなく、小学生や子どもたちにかかわる国際理解事業を安平小学校と進めています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まちづくりに必要なのは、町民のやる気だと思います。そこが薄れてしまったり、離れてしまったりは、職員の方々が一生懸命考えた施策も事業も生きてこないと思います。町民が頑張ることが大切だと思います</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町のマークが既にあるのですから、それをシンボルに町民が一つになって頑張ることが大切だと思います。それ以外のものを必要とは思いません</li> <li>■（例で掲載されているものは）どれもチームが去ったと思います。交流人口増、まちのPRを考えるなら、奇抜なプロモーションビデオを考えるほうが効果的だと思います。インターネットを含め、様々な場面で活用できると思います</li> </ul>
	”	安平町体育協会	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>■所属団体（ある1団体）の組織者及び行事等の参加者確保に苦慮しているのが当面の課題です（会員の高齢化、若年層の流出、スポーツ離れなど）</li> <li>■各スポーツ少年団（15団体）の存続が大きな課題です（児童数の減少により、今後単一学校でのチーム存続は困難である）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各団体においては、マイナス思考にとどまらず、交付金に見合った活動を展開していただくように、今後協会としても指導の徹底を図って行きたい</li> <li>■当然可能な限り、財政面のバックアップも並行して行っていくつもりである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■当面は、スポーツ少年団の育成、存続に行政の支援を要請したい</li> <li>■具体的には、現在野球少年団は、なんとか学校単位でチームを結成しているが、将来は「オール安平」で1チームとして存続させることも視野にいれているようです</li> <li>■その点で、バレー少年団も同様、練習場が特定箇所になると思うので、選手の放課後における送迎等を検討していただきたい（町バス等による）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■合併以前から早来地区は研修センターの老朽化に伴い、多目的総合体育館の建設を要望していた。現在のスポーツセンターとも競合しているのが困難があると思うが、競技種目が全く違うので、厚真町のように総合体育館とスタードームが隣接する施設の建設を将来検討いただきたい</li> <li>■野球、テニス、ベタングなど、通年的に土の上でプレーする競技に適用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■毎年、町内スケート大会や、ミニカップなどの開催し、また、立派なスケートリンクや室内リンクが実在するわりには、これらの種目で町民の活躍が近年低迷している。なんとか、小中学生の底上げに行政の指導力を期待しています（スピードスケート、アイスホッケー、フィギュア）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■財源的な課題もありますが、町民が一堂に集うスポーツ大会等を企画してみたいかがでしょうか。合併以前には、両町とも町民運動会、綱引き大会、駅伝大会、ポスレー大会、スキー大会を開催していました</li> <li>■ベタング協会より要望があります。しのめゲートボール場を共用施設にしたいとのこと</li> </ul>	
	”	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■会員の高齢化と、それに伴う会員の減少それに伴う役員の手不足。ここ2～3年は、現状維持が精一杯。</li> <li>■若い世代（子育て中の女性も含めて）は、仕事をし、趣味には時間もお金もかけられず、ボランティア活動への関心が薄い。また、共働きも起きていると考える。</li> <li>■会員数は159人。胆振管内では一番多いが、実際に活動している人数は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■若い世代に婦人会活動を理解してもらい、子どもと一緒に参加できるイベントを考えたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■災害時のボランティアとして、現在自治会で実施しているグリーンフェスティバル時の「おにぎり作り」（女性部担当）が活かされて来ると思うので、若い世代へのアピールにしたい</li> <li>■各自治会の保健推進会と連携した取組みなども考えられるが、各単体（早来、安平、遠浅、JA）の人数は減っている。時代に合わせて体制を変えていく必要もあるのかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■早来・追分間の交通手段を考えてほしい。従来の無料循環バスが無くなったが、活動をするうえで、足の確保が必要となる。現在は、会員の車に乗り合わせ集合しているが、事故が心配。</li> <li>■若者が安心して働ける職場を確保してほしい</li> <li>→安平地区は何もない。働く職場があれば、もう少し人が増えると思う。</li> <li>■自治会の中で、在宅独居老人、高齢者等の見守り、子育て支援、健康推進等広報で知ることができるが、サービスを受けていない方のサービスを希望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■イベントの参加（できる範囲で）</li> <li>■防災関係</li> <li>■早来・追分間の地域の交流</li> <li>■追分更生女性会の事業に共催参加させてもらった。こういった小さな繋がりや連携から、徐々に交流が進めば良いと考えている。</li> <li>■女性の集いに、PTAのお母さんなどにも参加していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■縁があって合併したのだから、一体感を感じられる事業を考えてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■形や象徴を作ったとしても、一体感がなければ意味がないので、必要ないと思う</li> <li>「あびらソング」子どもから高齢者までの楽しく歌って簡単な振り（体操的な動き）のある曲だと定着できるのでは。各イベントごとに流し、あびらチャンネルでもテーマ曲のように常に流れ出るような曲であれば良いと思う。</li> <li>■テレビ局で行っている「体操的な動き」の曲など（くでたま）</li> </ul>	



## 団体ヒアリング意見内容

区分	団体名	出欠 (○×)	①貴団体の活動を進めていくうえで、抱えている「課題・問題」は何ですか？	②貴団体の今後進めていく基本的な方向性や取り組み、活動についてお聞きします。	③課題解決のために、今後取り組む新たな活動や事業として考えられることは何ですか？	④貴団体の活動を推進していくうえで、町に希望・期待することは何ですか？	⑤町が実施している施策の中で、貴団体が連携できる取り組みとして、どのようなことが想定できますか？	⑥町のまちづくり全般についてお聞きします。町として新たに取り組みべき施策・事業として、何が必要であると考えますか？	(の安平町は合併して今年で10周年を迎えます。これを記念して、「ひとつの町」であることを形として表現する取り組みを求める町民の声もありますが、年齢などによってその考え方やアイデアは様々です。そこでこの状況調査や団体との意見交換会を活用して、より多くの方からご意見をいただこうと考えています。		
5月24日 産業・青年団体ヒアリング	産業	安平町商工会	6/6に実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>■会員の減少・・・町内商工業主の高齢化の進展・後継者の不在</li> <li>■地域経済の衰退・・・町内購買力の町外への流出、建設関連企業の請負額の減少</li> <li>■追分ふれあいセンターいぶきの維持管理・・・建設から12年。施設・設備の計画的な修繕経費の確保</li> <li>■使用料のみの管理の難しさ、公共施設との兼ね合いなどあり、利用促進及び施設管理に課題が残る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■商工会組織・機能強化・・・商工会の経営支援機能の強化・巡回訪問による会員事業者へのきめ細かなサービスの提供・地域の総合経済団体としての組織強化</li> <li>■経営改善普及事業の取り組み・・・商工業に関する相談および指導・各種講習、研修会の開催・記帳継続指導及び記帳機械化の推進・労務、社会保険に関する相談及び指導</li> <li>■地域振興事業の取り組み・・・建議・陳情活動・まちづくり調査、研究への参加支援・地元購買の促進・官公需用品の地元購入の促進・官公需関連工事の地元優先発注の促進・全町共通商品券の発行、運営管理・町内イベントへの協力・まちづくり事業の推進等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■経営発達支援計画の策定</li> <li>1) 経営状況分析に関すること・・・小規模事業者への持続的発展への支援・伴走型支援</li> <li>2) 新規創業支援・・・新規創業希望者への相談・指導支援</li> <li>3) 町内消費者購買拡大への支援・・・シール大会・スタンプ会統合に対する協力、消費拡大地域活性化事業要望活動</li> <li>4) 追分ふれあいセンターいぶきの維持管理・・・アンテナショップとしての利用促進（店舗の持たない1F屋の集約及び販売拠点。デマンドバスの待合所機能など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町内商工業者の持続的発展に向けた取り組み</li> <li>1) 官公需用品の地元購入の促進</li> <li>2) 官公需関連工事の地元優先発注の促進</li> <li>3) 事業継承支援並びに新規創業への支援</li> <li>■地域経済の好循環に向けた取り組み</li> <li>1) 地域消費拡大地域活性化事業への支援</li> <li>2) シール会・スタンプ会統合に対する助成並びに参加支援</li> <li>■経営改善事業および地域振興事業に要する人件費及び事業費への継続支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安平町回遊・交流ステーション形成事業</li> <li>①特産物の商品開発に対する協力支援及び販路開拓支援</li> <li>②ご当地グルメ開発に対する協力支援</li> <li>③安平町回遊・交流ステーション形成事業 P R 支援</li> <li>■町主催事業及び各種イベントに対する参加協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生産人口拡大に向けた施策</li> <li>1) 企業誘致による雇用の場の確保</li> <li>2) 子育て世代への支援の充実・・・例) 保育料の無償化、幼小中学生の給食費の減免等、町営無料学習塾の開設</li> <li>■町有施設を活用した交流人口の拡大・・・例) 夏 - はだしの広場 冬 - スケートリンクと宿泊施設を活用したスポーツ合宿の誘致（道内・道外の中・高・大学）等</li> <li>■冬の競技イベントの開発・・・例) 国際雪合戦・TOYOURA世界ホタテ釣選手権・あつま国際雪上3本引き大会など</li> <li>■地域経済を活性化させるためには、町と商工会の一体となった事業展開を進める必要がある</li> <li>■町内企業を守り育てる環境整備（災害時の重機確保や雇用創出に寄与）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「ひとつの町」であることを形・象徴として表現する取り組みの必要性についてどのように思われますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■もし、その形・象徴制作に取り組み場合どのようなアイデアを想定されますか？（町民アンケート結果等で意見されたゆるキャラ、あびらソングなど）</li> </ul>
	"	安平町商工会女性部	6/6に実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢化、新規部員確保の難しさに直面している。後継者のいない事業所も増加している（女性部が青年部に入れる規約となったことも一因としてあるかもしれない）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■商工会女性部の活動は、①商工業に関する調査研究並びに視察を行う。②地域及び商工業の進行等に寄与する。③部員相互の親睦を図る。④社会一般の福祉の増進に資する事業を行う。⑤その他 であるが、今後もこれらの活動を継続していく</li> <li>■女性部に入りたいと思えるような活動・事業を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町政懇談会を商工会女性部でも開催していただきたい。担当課との連携をとり、消費者と事業所、行政と事業所との関係が円滑に進む方法を学びたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現在は、地域振興協力として、うまかまつりへの出店、花いっぱい運動への参加をしている。最低限、以上の活動は続けていきたい</li> <li>■女性部の評価及び周知（女性部活動における認知度の低さ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町のイメージ作りが必要だと思う。行ってみたい、住んでみたいと思えるようなもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■時間が解決することだと思うので長い目で見ていくことを希望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■根深夏さんが制作した「あびらのうた」に一度注目してほしい</li> </ul>	
	産業・青年団体	安平町商工会青年部	6/6に実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>■後継者不足や新規事業者がいないことによる部員の減少。また、このことによるイベント事業の実施も厳しいものがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成27年度規約改正により部員の年齢条件引き下げを実施し、部員の確保を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■青年団体として、規約に則った上で、町内の若い人たちが活動できるイベントや意見交換の場をつくる。また、一つの事業として町内他団体との連携を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現在着手している新たな特産品・みやげ品の開発が具現化すれば、今後ソフトバンクの食堂などでの P R 活動の共同実施も想定される</li> <li>■あびらチャンネルによる商店街の P R 活動（イベントにも活用可能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人それぞれの着地点や地区ごとの文化、また物理的な距離もあるため、一定の距離感には必然的に生まれるものであると感じている。</li> </ul>			
	産業	とまこまい広域農協早来支所	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合員（農業者）の減少や高齢化、担い手不足（後継者）</li> <li>・規模拡大に伴う労働力不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■経営を継続するための再生産可能な農業所得の確保</li> <li>■営農支援サポート体制の構築（雇用労働力確保事業の強化、作業受委託共同組織・機械共同組織の育成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■持続的な農業経営確立における担い手確保（個人・法人経営、後継者・新規参入者の育成支援）</li> <li>■畜産・酪農収益力強化の取り組み（H27.4：コントラクター組織設立、T M R センターの検討）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現在 J A も中期計画に基づき、農業振興における重点営農事項に取り組んでいる途中であり、地域振興における行政支援並びに関係団体の強調連携・情報共有で、取り進めることが必要</li> <li>* 安平町は耕種（水稲・畑作・園芸）、畜産（酪農・和牛・養豚）と多様な農業経営対であるため</li> <li>■耕畜連携等による地域内循環型農業の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域社会への貢献活動（地産池消・食農教育活動・農作業体験）</li> <li>■情報誌・H P 等を活用した地場農畜産物の情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■女性農業者の育成と活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安平町内の農畜産物の付加価値等（農水省の地理的表示保護制度 = G 1）を検討するならば以下のアイデアも安平町 P R の相乗効果として必要と考える</li> </ul>	
	"	とまこまい広域農協追分支所	×								
"	とまこまい広域農協女性部早来支部	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人数不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人数不足のため現状維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■思考中。時間的・時期的に余裕がない</li> <li>■昔とは環境が変化している。みんなの足並みが揃わない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■バス利用を気軽に利用しやすくしてほしい</li> <li>■ラピアを利用しやすくしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町民の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■1年に1回、早来と追分が協力して、共同で行事（お祭りなど）</li> </ul>			
"	とまこまい広域農協女性部追分支部	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>■部の結成時から農村地区の状況は時代と共に変わり、部員も世代が変わったり、新しい方が入部しており、当初の部の志や指針は、現在とズレがあるように感じます。部員の半数近くが、新部員という現状の今、時代に合った目標を立てていくことが必要と思っています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■数年前の部員減で、部は存続の危機となりましたが、部員を増やす活動により、現在、人数的には大きくなっており、しかし、皆現役に働いている女性たちの集団です。仕事以外の活動になるため、負担を少なく、かつ、それぞれの仕事に良い作用を及ぼす内容の活動を考えていくつもりです</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まず、部の内部から変わっていかなくてはならないと思います。「部員が女性部に求めるものは何か、いろいろ考えてみる」「ひとりでは不可能でも団体なら可能になるということ」「意識を変えれば無限の可能性のある団体であることを認識する」</li> <li>■自分のため→家族のため→人のため→社会のため→環境のため→と広がっていけば良いと考えています</li> <li>■もし実現すれば、女性部は素敵な団体である。魅力的な女性が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■毎年秋に企画しているバス研修旅行。日頃休む暇も無く農作業をしている女性部員たちの研修をかねた羽伸ばしのこのイベントですが、町バスの利用ができなくなるとのお話があり困っています。予算の少ない中で活動を行い、かつ、それが明日への活力となる研修旅行です。バスが今までどおり利用できるようお願いいたします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■一番近いところで道の駅ではないでしょうか</li> </ul>				

## 団体ヒアリング意見内容

区分	団体名	出欠 (○・×)	①貴団体の活動を進めていくうえで、抱えている「課題・問題」は何ですか？	②貴団体の今後進めていく基本的な方向性や取り組み、活動についてお聞きます。	③課題解決のために、今後取り組む新たな活動や事業として考えられることは何ですか？	④貴団体の活動を推進していくうえで、町に希望・期待することは何ですか？	⑤町が実施している施策の中で、貴団体が連携できる取り組みとして、どのようなことが想定できますか？	⑥町のまちづくり全般についてお聞きます。町として新たに取り組むべき施策・事業として、何が必要であると考えますか？	(の安平町は合併して今年で10周年を迎えます。これを記念して、「ひとつの町」であることを形として表現する取り組みを求める町民の声もありますが、年齢などによってその考え方やアイデアは様々です。そこでこの状況調査や団体との意見交換会を活用して、より多くの方からご意見をいただこうと考えています。	
5月24日 産業・青年団体ヒアリング	産業・青年団体 とまこまい広域農協青年部早来支部	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農業後継者の減少による新規部員の加入が減っていること</li> <li>■全体の部員数の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■若手農業者のための、仲間づくり・勉強の場を提供</li> <li>■広域青年部の活動に参加し、各種イベント等でのPR活動に力を入れていきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新規部員加入のためのPR活動の強化</li> <li>■将来的には、追分支部との統合も検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農協青年部の活動の様子を町の広報紙等で紹介。新規就農者の募集・支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安平町の特産品のPR活動</li> <li>■農業・食を通じた教育活動</li> <li>■農作業体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■立地条件の良さを活かした、都市住民との交流活動</li> <li>■農業の生産性向上のための農地の合理化や、集荷・保管施設の増強</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「ひとつの町」であることを形・象徴として表現する取り組みの必要性についてどのように思われますか。</li> <li>■もし、その形・象徴制作に取り組む場合どのようなアイデアを想定されますか？（町民アンケート結果等で意見されたゆるキャラ、あびらソングなど）</li> </ul>	
	" とまこまい広域農協青年部追分支部	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>■青年部員の減少に伴い、今後の事業の遂行に支障が生じること</li> <li>■若手の農業後継者が少ない。また、一人ひとりの青年部という組織としての意識がバラバラであるということ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農協事業への積極的参加。農産物即売会の実施。廃ビニール回収事業への協力。先進地視察研修の実施又は営農にかかわる勉強会。新入部員の加入促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新入部員の勧誘は進めていくが、今後の部員減少に歯止めが利かない現実が変わらないと思う</li> <li>■であるならば、組織として継続する道は、事業の大幅な削減しかないと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■若手の農業者に対して支援が必要。私達が事業活動している中で、どれかひとつでも協力してほしい。後継者対策として花嫁対策をどんどん開催してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■うまかまつりでの、アトラクションへの参加（アサヒメロン早食い競争）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■小児科の医療設備体制が不十分である。子育てがしにくい現状である。例えば予防接種の補助がない。（インフルエンザなど）。若い人達が住みにくい現状になっていると感じる</li> </ul>		
	産業 安平町誘致企業会	×								
	産業 あびら観光協会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■法人化し、いかに収益を出すかが大きな課題である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安平町における観光資源の開発、宣伝、観光客の誘致、観光施設の運営などにより安平町の観光産業の振興と地域活性化に向けた取り組み</li> <li>■旅行代理店との連携やインバウンド（訪日旅行）を事業として行う</li> <li>■町民との接点を重要視し、無料の旅行相談（海外拳式・ホームステイ・ワーキングホリデー）を行いSNSなどを駆使し情報発信を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■収益を確保するための事業の検討と実施</li> <li>■地域おこし協力隊を活用したグリーンツーリズムの推進により収益増を図る</li> <li>■あびら夏！うまかまつりの受託検討</li> <li>■効果的な物販を検討（都市部での開催など）</li> <li>■安平・千歳・長沼などで組織する中央南部交流集会にて、DMOの立ち上げを検討している。</li> <li>DMO：地域全体の観光マネジメントを一本化し、着地型観光のプラットフォーム組織</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ふるさと納税による寄付金の活用</li> <li>■物販時などの町職員の人的補助</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■観光関係施設の管理</li> <li>■新たな特産品（お土産品を含む）の新規開発</li> <li>■町の観光情報発信による知名度の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現在はハード事業が中心であるため、今後は住民が「住み良いまち」と感じるようなソフト事業の実施</li> <li>■あびら10選のような安平町における観光スポットの設定や道の名称を設定することにより回遊交流がしやすくなる</li> <li>■追分一部地域のように早来地区においても電線の埋設を行い景観を整備する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■合併して10年となるため、両地区の住民が一つとなり10周年の取り組みをすることは大変有意義なことであり必要</li> </ul>	
青年団体 若者塾	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■不定期開催のため人数が集まらず、また参加メンバーも固定してしまっている</li> <li>■イベント活動後に地域活性化まで至っていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■運動会などの交流や町内イベントに定期的に開催及び参加していく</li> <li>■メンバー集め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■拠点を作らず、町内を周遊しながら若者塾の開催を検討</li> <li>■PR方法の検討</li> <li>⇒来たいと思える場所・魅力などのきっかけづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■定期的に町広報紙で活動の様子を掲載していただきたい（町内の若者に周知するには有効な手段と認識）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■子育て世代が住みやすい環境づくり（近場に小さい子が遊べる公園がない等）</li> <li>■生涯学習フェスティバル事業として、乳幼児対象の「あそびのひろば」が開催されているが、このような親子で遊べる施設が常設されると子育て世代へのPRになるのではないかと</li> </ul>				